

11月11日～12月12日
電池月間



でんち

平成13年9月1日

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5-8
機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)
E-mail. bajapan@hi-ho.ne.jp
ホームページ <http://www.baj.or.jp/>
振替口座 東京8-91022
発行人 木村侃丘
定価1部郵送による年決め2,400円

BAJグローバル活動を展開

平成13年度事業計画の一つである「海外との協調と協争」について海外諸団体との国際交流、連携強化活動を展開している。

主要テーマである国連輸送、環境リサイクル、規格、マーケット等、諸問題の情報交換と協議を積極的に行い21世紀のグローバル・アクション・アイテムに取り組んで行く。各活動概要は下記の通りである。

1.日欧米環境専門家会議(TWG)

第10回TWGが本年6／5～6の間、米国シアトル市において米国4名、欧州4名、日本4名の参加で開催された。

1)電池の回収・リサイクル技術

欧州では、一次電池の処理コストが明確になりつつあり、Hg含有なしで電気アーク炉処理では100～300Euro(1～3万円)。ロシア、中国からHg含有の模倣電池が欧州市場に5%ほど出回っている。日本の分別技術を紹介し好評を得た。

2)電池規制の動向

EU電池指令は、Cd禁止を含めた内容で依然審議中。フランスは2003年から電池埋め立てを禁止。ギリシャ、ポルトガル、スペインで規制法が成立。日本は改正リサイクル法と推進センター設立の紹介。米国では、16州でHg含有製品の禁止と表示の規制が出ている。

3)電池回収率の定義(OECD対応)

日本から、各国で実施している回収率の定義取組みを紹介し共通化案紹介。TWGとして、定義化の必要性を再確認し継続検討。



4)亜鉛、マンガン等の物質規制について

亜鉛については、オランダ政府主管でリスクアセスメントが報告されている。日本からは、大学の協力で15年にわたり進めている埋め立て実験状況と結果をVIDEO紹介した。評価高く学術レポート報告の要望あり。

5)国連危険物輸送と廃棄リチウム電池の安全輸送ガイドライン(TLWG)の取組み

12月国連勧告の概要紹介と、米国での法制化状況の紹介。2年間のTLWG活動のまとめとして、Green Bookの名称で今年度末に完成予定。

6)世界の電池規制のモニタリング

中国(Hg規制)と韓国(環境税)の規制が出ている。アルゼンチン、メキシコでは、地域レベルでの回収スタート。

今後のTWG会議は、18ヶ月毎の開催とし、次回は2002年10月に日本担当で開催。

2.国連輸送規制に関する日米業界合同会議

第2回の合同会議が6／8に米国ワシントンで開催され、BAJ3名、PRBA(米国電池工業会)5名、顧問弁護士2名、EPBA(ヨーロッパ電池工業会)弁護士1名、NEMA(米国電気製品等製造者協会)3名によるリチウム電池輸送規制に関する協議が行われた。

1)自主的輸送規制プログラム(VTCP)に関する動き

- ①合同会議で合意したVTCPについて、米国ではPRBAが米国運輸省、国際航空運送協会、国際民間航空協会等に、説明会を実施。欧洲の啓蒙については、PRBAからEPBAに依頼。アジアについては、BAJが日本、台湾、韓国で実施、更に中国を予定。
- ②米国運輸省との話し合いで、VTCPは米国での立法化が早まる模様。

2)12月国連勧告の実施に関するガイドブック

日本の業界として、主旨に沿った、かつ負担を最小化できる共通ボトムラインの設定等、実施上のインストラクションを目的にし、ドラフト完成時の12月に米国側の顧問弁護士によるチェックを受ける。

3)BAJ2003年度までの活動計画紹介

国連で取り上げられている廃棄物輸送問題については、業界がリード出来るように取り組む。また、廃棄リチウム電池の安全輸送ガイドライン(TLWG)のグリーン・ブックに関しては、今後PL上の考慮と公的機関への働き掛けに重点を置きフォローする。

3.欧洲産業用電池工業会(Eurobat)会議

Eurobat会議が6／26～27にブリュッセルで開催され、BAJに参加招待と講演要請があったため、木村専務理事と藤本国際担当部長が出席した。

- 1) Eurobatの会員は70社で、会長はイタリア・FIAMMグループのCEO, Mr.G.Dolcetta氏。自動車用鉛電池と産業用アルカリ電池を扱う。
- 2) 主な講演内容は、ワールド・エコノミー＆スタンダードをキーワードとした「自動車用電池の世界市場動向」「36／42Vシステムに関する自動車業界のビ

ジョン」「テレコミュニケーション・バッテリーの世界市場」等であった。

3) BAJ木村専務理事からは、「産業用電池の市場動向とEV等を含む将来展望」について発表。聴講者から、日本は高電圧技術開発(36/42V)をどの電池系で進めているのか、また燃料電池自動車の開発動向等に強い関心が示された。

4.中国化学・物理電池工業協会(CIAPS)交流会

CIAPS(China Industrial Association of Power Sources)交流会が7／23～24に中国昆明で開催され、BAJから5名参加し、電池輸送、市場動向、リサイクル等について交流を図った。

1) CIAPSの概要

1989年設立の団体で、会員は「電池メーカ、設備機器メーカ、部品材料メーカ」の324社。主な事業は、国と企業の橋渡し、政府委託事業の実施、国際的な情報交換と協力の推進。

活動部会は、①アルカリ蓄電池部会 ②リチウム電池部会 ③鉛蓄電池部会 ④乾電池部会 ⑤太陽電池部会 ⑥設備・部品・材料部会がある。

2)リチウム電池・航空輸送の自主的規制プログラム(VTCP)セミナーの実施

中国リチウム電池メーカーから約60名が参加する中、電池輸送の安全確保のため、自主的に規制する事項を詳細説明し、遵守して頂くよう要請。BAJが提出した英文資料を、CIAPSが後日、中国語に翻訳し配布徹底の予定。

3)日本における電池業界の動向

BAJ事業概要、電池生産・販売統計、用途分布等を紹介。CIAPSからも同等の情報を提供してもらうよう要望した。

4)日本における電池リサイクルの状況

リサイクル・システムや関係業界との協力体制及び課題等を紹介。中国の参加関係者は、リサイクルの目的や必要性を、まだ共通認識できていない状況であったが、日本の取組みには、非常に高い関心が示された。

蓄電池設備整備資格者

講習修了考査合格者

宮城県・北海道会場分

電池工業会は、本年6月28、29日宮城県で、7月3、4日北海道で開催した、蓄電池設備整備資格者講習の修了考査に合格した者の氏名を発表した。合格者(合格率)は、宮城県47名(85.5%)、北海道35名(77.8%)であり。合格通知は直接本人に通知される。

<宮城県>

船渡孝之、鈴木茂三、阿部 訓、泉山憲司、岡野谷光男、今野勝宏、菅原勝利、伊東幸一、長内義則、伊藤 修、安達和弘、佐藤 敏、山田茂喜、中平 剛、千葉 伸、久慈一洋、池田雅人、吉田 修、片倉健吾、酒井克治、安孫子友一、今 啓一、草野正夫、岩間龍一、石井秀人、安藤崇貴、伊藤義治、鈴木 裕、友野直也、佐々木光夫、廣谷良道、小鷹 学、千葉智幸、松崎慎一、杉山徹則、佐藤憲彦、山田 王、原田隆太、伊藤英勝、小山隆幸、笠井比呂司、高橋克巳、渡部泰太、天内裕貴、

櫻井勝雄、高橋尚美、桜庭学。

<北海道>

細野栄三、古川弘一、長門 賢、高橋貞儀、三浦澄男、執行高浩、小池敏光、金田智明、風間信幸、吉田光雄、三浦隆志、稻毛宗絃、蜂谷佳久、佐々木正隆、霜野浩志、高橋 忍、氏家 盛、松田 崇、布川貴光、藤坂貴志、石川 司、木本明香、稻垣敏博、伊東将樹、鎌田大史、鶴田啓介、高橋 大、高橋 悟、岡田健治、加藤千尋、高林 剛、小島孝幸、猪狩政則、矢田欣也、紺野 透。

業界動向

*松下電池工業 電池応用商品の売り上げを、介護・環境分野に照準を当てることで、現在の倍以上の年間300億円規模に引き上げる方針を固める。

(7月2日付 化学工業日報)

*コンパックコンピューター(日本) 総勢200人規模の専門組織を設置しPDAの企業向け販売の拡販を目指す。(7月2日付 日経産業)

*スカラ(日本) 100倍までの拡大画像を撮影できる顕微鏡機能付のDSCを開発、尚スカラは1985年に設立されたベンチャー企業。

(7月2日付 日経産業)

*携帯電話 auは複雑なゲーム、Jーフォンはカメラ搭載、ツーカーは492種の音色を全面に押し出す等携帯各社は、高機能と遊び感覚を競う事での販売を開始した。(7月3日付 日経)

*ヒット(日本) 高速の無線LANを標準搭載し、インターネットに常時接続出来る業務用販ハンディー端末を発売する。尚、生産は業務用ハンディー端末市場で急速にシェアを伸ばす台湾のユニテック社。

(7月3日付 日経産業)

*松下電池工業 リチウムイオン汎用電池パックの製造販売体制を強化、350万個体製に。又、今後はこの物を用いて小型携帯機器用電源の業界標準化を目指す。

(7月3日付 日刊工業)

*電池工業会 自動車用の用済み鉛バッテリーから回収された鉛は、昨年度は重量ベースで対前年度比2.6%減の11万3千トンになり、二年連続で前年度割れになった旨を発表。

(7月4日付 日刊自動車新聞)

*フクバデンタル(日本) 歯垢を取り除きやすくした電池内蔵の歯ブラシを開発、拡販に乗り出す。又、本体内に電池チャッカーを搭載したタイプも9月から発売へ。

(7月4日付 日経)

*日本プリント回路工業会 世界の携帯電話端末の需要構造が、本年を境に新規加入者型から買い換え型主体に変化する旨を予測。

(7月4日付 化学工業日報)

*松下電器産業&九州松下電器 電話コンセントのない部屋で、データ通信ができるワイヤレスリンク機能を搭載したデジタルコードレスファクシミリを商品化、7月下旬から発売する。

(7月5日付 電波)

*ホンダ 燃料電池電気自動車(FCEV)の公道テストを国内でも始める旨を発表、日米での公道テストを通じ、データーを蓄積、2003年の実用化を目指す。

(7月5日付 日刊工業)

*ローカス(日本) 携帯電話を使用中の人の所在地を自動的に測定出来る技術を開発、年内にも実用試験に着手し、来年中の商用サービス開始を目指す。

(7月5日付 日経産業)

*三洋電機 神戸サイエンスパークに電池関連技術の研究所を新設し、全社組織の研究開発本部と社内分社であるソフトエナジーカンパニーに分散している電池の研究開発者を集める旨を発表。

(7月6日付 日刊工業、日経、日経産業、電波&化学工業日報)

*松下電池工業 走行中の空気圧をチェックする装置専用のコイン形リチウム電池を増産する旨を発表。

(7月10日付 日経産業)

*NEC OSにマイクロソフトWindowsCEを採用したPDAを商品化し、年内にPDA市場に参入する予定である事を発表。

(7月10日付 電波)

*電池工業会 安田会長、本年度は「回収リサイクルの強化による循環型社会の構築」、「海外メーカーとの協調と競争」「平成14年度業界規模一兆円達成」をキーワードに工業会活動を行っていく方針である旨を記者会見で語る。

(7月11日付 電波)

*ゼットエムピー(日本) 科学技術振興事業団プロジェクトチームの人型ロボット「ピノ」の事業化に乗り出す。

(7月11日付 日刊工業)

*経済産業省 燃料電池自動車の普及支援策として、2002年度から総合的な実証試験に乗り出す、期間は3年間。

(7月11日付 日刊工業)

*電池工業会 自動車用バッテリーの交換促進に向け、クイズ形式による「早めの交換PRキャンペーン」を実施する旨を発表。応募期間は、本年11月11日から12月12日までの二ヶ月間。

(7月11日付 日刊自動車)

*ホンダ 太陽光エネルギーを使い水から水素を発生させ、燃料電池車の燃料として供給をする水素ステーションの運用実験をカリフォルニア州で開始したと発表。

(7月11日付 日経)

*産業構造審議会 製品の再利用や再資源化の目標を定めた「廃棄物処理・リサイクルガイドライン」を改定、新たに携帯電話、蛍光管、レンズ付フィルム等7品目を加することを確認。(7月12日付 日経)

*明電舎 重電部門の低迷が続いている事から、新たに介護・福祉関連事業を本格化させ、2004年度には同事業で30~40億円の売り上げを目指す旨を発表。

(7月12日付 日経)

*物質・材料研究機構(独立行政法人) ナノテクノロジーを活用し充電機能を兼ね備えた高効率な薄膜太陽電池の開発に着手。目標は2005年になるが、本品は従来の太陽電池とは異なり電気を蓄え、放電する機能を持つ予定。

(7月13日付 化学工業日報)

- *松下電池工業 上野常務〔一次電池事業グループ長〕、2003年度に生産額の世界シェアでナンバー1になる為、アルカリ乾電池で勝負をかけたい事、河瀬専務〔二次電池事業グループ長〕、小形二次電池シェアを現在の20%から、3年で30%にする為、モノづくり、営業スタイルの全てを変える事、移動体通信分野、ハイブリットカー用に期待をしている事等を各々語る。
 (7月16日付 日刊工業)
- *電池工業会 小形二次電池再資源化推進センターの会員社数が、スタート時の87社が107社に拡大した旨を発表。
 (7月16日付 週刊循環経済)
- *三洋電機 中国・天津市にあるニッケル水素電池の生産工場で同電池のパック加工の生産能力を大幅に増強、8月から携帯電話向けを中心に月産160万個に引き上げる旨を発表。
 (7月16日付 日刊工業)
- *コニカ 年末を目処に、携帯電話、PDAなどに搭載する超小型カメラ部品事業に参入。
 (7月16日付 日経)
- *小形二次電池 携帯電話、ノートPCの電源として高成長を続けてきた小形二次電池の需要が今年になり、生産の前年割れが続いている。秋口から回復が期待されているが、アジアメーカーの追い上げも急を告げている為国内メーカーの棲み分け等が進みそう。
 (7月17日付 電波)
- *東邦亜鉛 開発体制を強化しリサイクルなど五つの重点テーマを設定、競争力をアップへ。
 (7月17日付 日刊工業)
- *住友金属鉱山 2004年を目処に、フィリピンでのニッケル精錬事業を開始する旨を発表。
 (7月17日付 日刊工業)
- *東芝 基本ソフト(OS)にウンドウズCEをベースとしたポケットPC搭載のPDAを8月20日から発売する。尚販売台数は、月1万台を予定中。尚、本品の電源にはアバランストリチウムバッテリーを採用、8時間の連続使用が可能になっている。
 (7月17日付 電波、日刊工業、日経産業&日経)
- *ヤマハ発動機 電動アシスト自転車に大容量電池(ニッケル水素)を搭載した新製品を7月26日から発売する。一回の充電で補助できる距離は従来の1、4倍の56キロメートル。
 (7月17日付 日経産業)
- *NTTドコモ 10月に本格サービスの開始を予定の第三世代(次世代)携帯電話のうちのテレビ電話のデモンストレーションを開始し、16日に報道機関に公開した。
 (7月17日付 朝日)
- *松下電池工業 二重の安全保護回路を内蔵し世界最薄を実現した次世代リチウムイオン電池パックの生産を、来春を目処にこれまでの7倍の年産700万個規模に増強する。
 (7月17日付 化学工業日報)
- *電池工業会 昨年度の電池の販売数量は70億9千4百66万4千個で前年度に比べ2%減になった事、又、販売額は8千百70億1千百万円で同1%減になった事等を発表。
 (7月18日付 化学工業日報)
- *DVC&DSC シャープ、三洋電機を中心に、デジタルビデオカメラ(DVC)とデジタルスチールカメラ(DSC)で、お互いの領域に入り込む動きが活発化し始めた。
 (7月18日付 日刊工業)
- *エスアイアイ・ピーアンドエス(SIIの子会社) PDA向けに低電圧で動作可能なプリンターを開発、今月18日から発売を開始する。尚、電源はリチウムイオン二本、或いはニッケル水素4本(6本)使用になっている。
 (7月18日付 日経産業&電波)
- *デジタルスチールカメラ 国内出荷台数が、2百94万9千2百台で、前年比96.8%の大幅増を記録した事、本品の調査主体が、2000年から電子情報技術産業協会から日本写真機工業会に代わり、調査期間も年度から暦年に変わった事等を発表。
 (7月18日付 日経産業)
- *広島大学&マツダ 広大・藤井教授とマツダなどのグループは従来の3倍近い量の水素を100°C以下の低温で吸収・放出できる水素吸収合金を開発した事を発表。本件は、燃料電池に必要不可欠な水素貯蔵技術として実用化に向けた研究の一つとして継続を予定中。
 (7月18日付 日経産業)
- *東京理科大 理工学部・工藤教授、光触媒を使った水の完全光分解で、水素と酸素の泡を連続して発生させる事に成功。
 (7月18日付 日刊工業)
- *ソニー 画像表示色数を従来の256色から6万5千5百36色に増やしたPDAを、8月4日から発売する旨を発表。
 (7月19日付 日経産業)
- *シャープ 太陽電池を増産、来夏には年150メガワット超の生産能力を構築予定。
 (7月19日付 化学工業日報)
- *電子情報技術産業協会(JEITA) リサイクルの法制化に対応、環境負荷の少ないパソコンに環境に配慮している事を示すマークを付ける新制度を導入する旨を発表。
 (7月19日付 日経&日経産業)
- *乾電池需要 2001年度の乾電池の国内需要が、DSC、携帯型MDなどの支えで3%増の2500億円が期待されている事、マンガン電池からアルカリ電池への移行が進み単三では70%、単四では90%がアルカリになった事等を発表。
 (7月20日付 電波)
- *ホンダ 燃料電池車(FCは、カナダのパラード社製)の走行テストを公開し、加速の良さをアピール。尚、ホンダでは本自動車の商品化は2003年を予定中。
 (7月20日付 日経)
- *携帯電話 携帯電話販売の急速な鈍化で、欧州の通信機器業界の苦境が鮮明になる。世界最大手のノキア社も2001年度第2四半期(4月―6月)は、16%の減益になる。
 (7月20日付 日経)
- *中国情報産業部 本年1月―6月期の新規電話加入者が5千百67万世帯になった事、電話普及率が24.4%と昨年末に比べ4.3%上昇した事等を発表。
 (7月20日付 電波)
- *東邦亜鉛 環境変化に耐え得る収益構造の確立を目指し、非精錬部門の事業拡大を柱とした長期ビジョン(2005年度が最終年度)を策定した。尚、最終年度の連結売り上げ額は700億円。
 (7月25日付 化学工業日報)
- *松下電器産業&松下電池工業 中国で小形二次電池を生産する為、7月に現地子会社(江蘇省・無錫市)を設立した事を発表。具体的には、2002年1月から電動工具用のニッケルカドミウム電池の生産を開始、生産が軌道に乗ればニッケル水素電池も生産する予定。
 (7月25日付 日刊工業)
- *新神戸電機 サイクル特性3000回の超ロングライフで低コストのシール鉛電池を開発、8月から発売する。
 (7月25日付 化学工業日報)
- *YUASA 液体メタノールを直接燃料として利用する直接メタノール型燃料電池(DMFC)で、最大出力200ワットの高出力スタックの開発に成功した事を発表、2003年の発売を目指している。
 (7月26日付 日経産業&日刊工業)
- *竹中エンジニアリング 教育施設向けの携帯型の防犯ブザーの発売を7月25日から開始。尚、本品は全国的に児童生徒のを守る為の安全対策の強化の動きに対応した物。
 (7月27日付 電波)
- *トヨタ HEVの発売を、欧米に続き香港、シンガポール、豪州でも発売する旨を発表。
 (7月27日付 日刊工業)
- *YUASA 次世代二次電池開発の中枢拠点となる先端電池研究所を新設、7月から業務を開始した。具体的な研究内容は、当面リチウムイオン電池、ポリマー電池が中心になる見通し。
 (7月31日付 化学工業日報)
- *松下電器産業 独ライカカメラとDSCについて業務提携をする事、複数機種を共同開発し秋以降に商品化する事などを発表。
 (7月25日付 日刊工業、日経、電波&日経産業)

平成13年 8月度の電池工業会活動概要

部会	8月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
会 特 議 別	3日(金)	IEC/TC1 国内委員会 電池用語	*一次電池、二次電池の国際規格用語案について日本の投票姿勢反対を決定
	29日(水)	広報総合委員長会議	*今後の広報組織と運営について協議
二 次 電 池 部 会	1日(水)	自動車鉛分科会	*JIS(二輪自動車用鉛蓄電池)の改正案。大形電池液面線追加の進捗状況
	2日(木)	二次電池部会	*産業用電池・自動車用電池リサイクルについて
		産業用電池小委員会	*産業用電池の新しいリサイクルスキーム申請について
		用語分科会	*SBA(蓄電池用語)の最終校正現行の確認
		EVリチウム分科会	*EV用リチウム電池規格原案の作成方針の決定と作成分担
	6日(月)	電気車用電池リサイクル分科会	*電気車関連業会事務局への電池リサイクルの状況説明
	9日(木)	小形鉛分科会	*JIS(小形シール鉛蓄電池)、SBA改正案、IEC規格最終案
	22日(水)	広報委員会フェアWG	*交通安全フェア連絡会に出席しブースの確定と今後の準備の確認
		据置鉛分科会	*JIS(船用鉛蓄電池)、SBAの改正案審議。制御弁式電池の劣化診断検討
	23日(木)	電気車鉛分科会	*JIS(電気車用鉛蓄電池)、SBAの改正案
		EV小委員会	*東京モーターショーへの取組み、分担について。電動車両協会委員会の報告
	28日(火)	密閉形鉛蓄電池リサイクルプロジェクト委員会	*認定申請準備(二次電池部会の決定を入れて見直し)
小 形 二 次 電 池 部 会	29日(水)	二次電池リサイクル拡大事務局委員会	*産業用電池の新しいリサイクルスキーム申請について
		自動車鉛分科会	*JIS(二輪自動車用鉛蓄電池)の改正案。
	30日(木)	二次電池技術委員会	*JIS原案3件、SBA原案4件。IEC国際会議出席報告
	2日(木)	国連対応WG会議	*IATAセミナー事前説明会のシナリオ検討
		アルカリ分科会	*大口ユーザールートの取組み、ニカド埋設実験の件など
	7日(火)	IATAセミナー事前説明会	*国交省・航空局、海事局、全航連会員出席のもとシナリオ検討
	9日(木)	NEBA(日本電気大型店協会)訪問	*リサイクルキャンペーンの再徹底のお願い等
一 次 電 池 部 会	24日(金)	ニカド・ニッケル水素分科会	*IEC規格の継続審議とJISC8708ニッケル水素原案改正審議
		業務委員会	*小形二次電池の出荷実績(7月)確認及び状況の解析
	30日(木)	国連対応・IATAセミナー最終版検討会議	*8/7のシナリオ検討にもとづきセミナー内容の最終版を確定
	31日(金)	小形二次電池技術委員会	*各分科会報告&IEC/TC1用語への投票と結果、UN報告
	1日(水)	循環技術委員会	*8月に実施する乾電池再資源化実験予定、内容の最終確認
	7日(火)	一次電池資材委員会	*グリーン調達 各社の取り組み状況調査表について
	8日(水)	環境対応委員会	*乾電池回収問題についての考え方を纏める取り組み方を審議
	3日(金)～	手作り乾電池教室	*権原、甲府、鳥取、能代、筑波、松山、松江、防府の全国8箇所で開催
	9日(木)	広報委員会	*We love Denchi、暮らしの中の電池(No.3)の校正内容の確定
	24日(金)	調査統計小委員会	*最近の一次電池販売状況について意見交換と分析を行った
	29日(水)	乾電池埋め立て実験研究報告会	*福岡大学より昨年1年間の実験研究結果の報告を行った
	30日(木)	TC114 日本時計協会との協議	*ISO TC114への時計用二次電池規格擦り合わせ
		一次電池技術委員会	*小委員会報告、JIS改正案審議説明、海外製品の技術状況調査確認について

●新製品ニュース●

乾電池式ごますり器 BH-924を発売 ステンレス刃ウス採用で、ムラの少ない均質なごまがされる 業界初 ウス部を取り外して水洗いができる

松下電池工業(株)(社長 安田幸伸)は、業界で初めてウス部が取り外せて水洗いができる乾電池式ごますり器を10月10日から発売します。

当社は1978年に他社に先駆けて乾電池式「ごますり器」の1号機を発売、本製品で8代目となります。従来品は、いずれも上部にごま入れの容器とウスがあり、すったごまが本体の側面を通して下から出る構造になっていたため、側面にごまが付着し掃除しにくいという声がありました。

本製品は従来品とは逆に、上部に電池、モーター部を、下部にごま入れの容器とウスを配置した構造にしました。これにより、ごま入れの容器からすったごまが直接出るので、すりごまが側面に付着することはなくなりました。またウス部を外せて水洗いができることで、より清潔に保てるようになりました。

[特長].....

- 1.業界初、ウス部を取り外して水洗いができる清潔構造。
- 2.ステンレス刃ウス採用で、ムラの少ない均質なごまがされる。
- 3.ごますりがスピードにできます。(ごますりスピードが約30%アップ)

*従来品(BH-923)比、温度20°C、湿度 50%時

[乾電池は単3形乾電池4個(別売)]



二酸化マンガンリチウム電池「CR-V3」を発売 デジカメ用途で業界最高容量*を達成

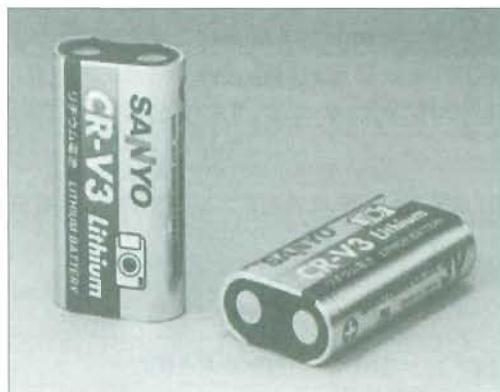
三洋電機(株)ソフトエナジーカンパニー(社長 井植敏雄)は、デジタルカメラ等の高出力用途に最適な新形状の二酸化マンガンリチウム電池「CR-V3」を開発しました。「CR-V3」を使用することによりデジタルカメラの高機能化、長時間撮影が可能となります。また、単3サイズ電池の2本仕様との互換設計も可能とした新形状を採用しました。

本年9月より出荷を開始し、市販は10月25日より開始する予定です。

[特長].....

- 1.デジタルカメラ用途などの大電流放電時で業界最高容量*を達成。
- 2.単3サイズ電池の2本仕様との互換設計が可能なため、単3サイズの乾電池、充電式電池も使用可能。
- 3.低温特性に優れ、幅広い温度範囲で使用が可能。

*2001年8月7日現在、3W放電時、当社調べ



[用途].....

- ・デジタルカメラ、ヘッドライト、カメラ、ストロボ、シェーバー、小型AV機器、携帯情報端末、セキュリティ関連機器(電子錠、報知器)など

●新製品ニュース●

■直接メタノール型燃料電池スタック開発のご案内

YUASA(社長 大坪愛雄)は、液体メタノールを燃料に用いて水素ガスに改質することなく、直接発電ができる直接メタノール型燃料電池(DMFC)の研究開発を行ってまいりましたが、このほど、燃料電池スタックの開発に成功いたしましたので、ご案内申し上げます。

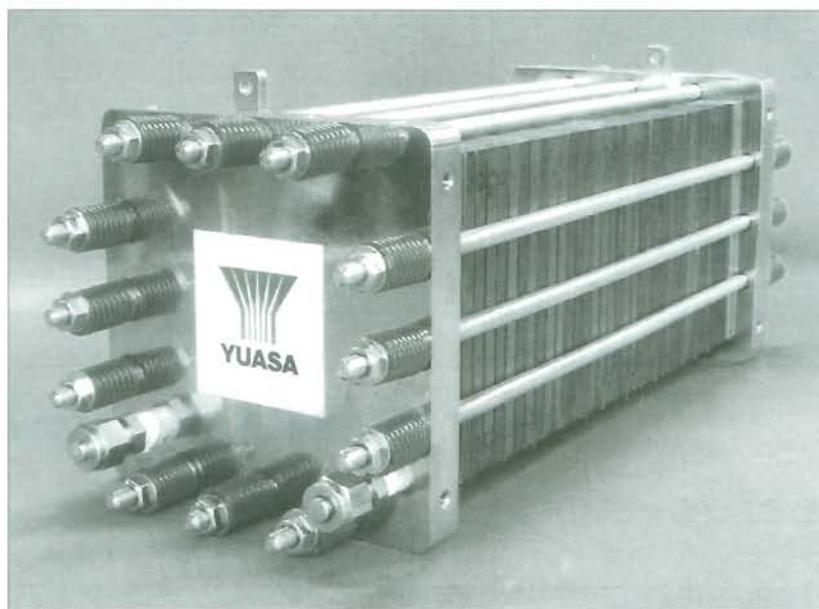
今回開発いたしました燃料電池スタックはセパレータ板に独自の流路構造を、また、電極には高活性触媒を効率良く機能させる構造を、それぞれ開発したことにより、当社従来品に比べ、電池特性の大幅な向上が図れ、触媒量も1／3に減らすことができました。その結果、燃料に3%メタノール水溶液を、酸化剤に空気を用いて、作動温度90°Cの条件

において、業界最高水準の最大出力200Wを達成することができました。

今後、この燃料電池スタックを用いて、本年10月を目途に燃料電池システムを構築し、実証試験を行い、2003年度の商品化を目指して取り組んでまいります。

燃料電池スタックの内容

- (1)最大出力 200W
- (2)電池電圧 12V
- (3)最大電流 17VA
- (4)スタック数 34セル
- (5)燃料 3%メタノール水溶液
- (6)酸化剤 空気
- (7)作動温度 90°C
- (8)寸法 L336×W120×H132(mm)



[特長]

- 1.液体燃料を用いて直接発電するため、液体メタノールを水素ガスに改質する装置(改質器)や一酸化炭素除去装置などが不要であり、システムがシンプルである。
- 2.燃料が液体であるため、その供給、貯蔵が容易である。
- 3.低濃度のメタノール溶液を燃料とするため、安全である。

[用途]

- ・家庭用小型分散電源
- ・可搬式携帯電源
- ・無電化地域向け分散型電池

6月度電池および器具販売実績(機械統計)

(平成13年6月)

単位:数量=千個、金額=百万円

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量前年比	金額前年比	数量	金額	数量前年比	金額前年比
電池・器具総合計	515,190	57,078	84%	81%	3,013,338	349,219	85%	84%
全電池合計	514,215	55,418	84%	81%	3,008,155	339,966	85%	84%
一次電池計	376,636	12,859	88%	83%	2,197,893	76,652	90%	84%
マンガン乾電池計	89,919	1,851	82%	80%	566,440	11,484	85%	76%
单一	8,790	465	82%	82%	58,776	3,082	76%	74%
単二	5,150	191	76%	77%	35,370	1,300	63%	62%
単三	51,977	846	90%	87%	310,463	4,853	93%	84%
その他	24,002	349	69%	67%	161,831	2,249	83%	74%
アルカリ乾電池計	115,092	6,321	87%	89%	643,708	35,387	89%	89%
単三	76,366	3,755	93%	97%	419,563	20,579	98%	100%
単四	24,349	1,280	68%	66%	140,980	7,461	73%	71%
その他	14,377	1,286	103%	100%	83,165	7,347	83%	84%
酸化銀電池	85,575	702	101%	70%	477,874	5,309	100%	89%
リチウム電池	81,467	3,805	85%	77%	485,724	23,394	86%	80%
その他の乾電池	4,583	180	107%	103%	24,147	1,078	106%	97%
二次電池計	137,579	42,559	75%	80%	810,262	263,314	73%	84%
鉛電池計	3,312	10,976	84%	92%	21,375	71,932	93%	100%
自動車用	1,773	5,867	90%	88%	10,909	36,670	99%	96%
二輪用	360	705	77%	79%	2,632	4,742	92%	89%
小形シール	936	1,015	73%	80%	6,308	6,440	80%	83%
その他	243	3,389	114%	109%	1,526	24,080	119%	117%
アルカリ電池計	97,717	11,315	71%	69%	575,857	69,588	67%	70%
完全密閉式	49,010	5,034	86%	76%	255,000	28,323	83%	81%
ニッケル水素	48,695	6,092	60%	64%	320,766	39,318	58%	63%
その他のアルカリ電池	12	189	171%	169%	91	1,947	78%	77%
リチウムイオン電池	36,550	20,268	89%	82%	213,030	121,794	94%	85%
器具計	975	1,660	97%	113%	5,183	9,253	78%	98%
携帯電灯	531	518	95%	99%	2,707	2,803	64%	72%
電池器具	444	1,142	99%	120%	2,476	6,450	101%	117%

6月度電池輸出入実績(財務省貿易統計)

(平成13年6月)

単位:数量=千個、金額=百万円(少數以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります)

	単月				1月~当月累計			
	数量	金額	数量前年比	金額前年比	数量	金額	数量前年比	金額前年比
全電池合計(輸出)	279,947	31,051	78%	78%	1,612,048	177,155	79%	78%
一次電池計	164,874	3,620	83%	84%	975,800	20,448	89%	86%
マンガン	47,127	403	81%	76%	295,451	2,350	93%	87%
アルカリ	24,283	429	67%	76%	139,008	2,374	77%	76%
酸化銀	36,747	450	96%	99%	212,660	2,653	105%	102%
リチウム	53,672	2,233	86%	83%	311,653	12,575	84%	85%
空気亜鉛	2,424	45	103%	111%	11,043	203	109%	106%
他の一次	620	60	134%	192%	5,983	294	92%	54%
二次電池計	115,073	27,431	72%	77%	636,249	156,707	67%	77%
鉛蓄電池	522	988	71%	90%	3,551	5,716	76%	87%
ニカド	41,368	3,592	84%	79%	196,967	18,376	79%	74%
ニッケル鉄	2	2	24%	108%	221	26	24%	30%
ニッケル水素	39,354	4,725	55%	55%	241,794	30,158	54%	58%
リチウムイオン	27,412	15,795	90%	82%	155,161	90,250	90%	83%
その他の二次	6,414	2,328	78%	104%	38,555	12,180	54%	90%
全電池合計(輸入)	32,623	2,896	84%	80%	226,434	21,537	113%	106%
一次電池計	30,096	689	95%	95%	200,579	6,103	121%	140%
マンガン	10,582	140	160%	140%	59,343	851	108%	111%
アルカリ	18,063	402	76%	78%	129,026	2,654	127%	117%
酸化銀	339	8	576%	334%	1,757	45	626%	383%
リチウム	647	61	64%	70%	5,602	628	85%	113%
空気亜鉛	10	2	9%	31%	1,499	67	78%	88%
他の一次	455	76	215%	627%	3,352	1,858	401%	272%
二次電池計	2,527	2,207	35%	76%	25,855	15,434	76%	97%
鉛蓄電池	399	1,062	77%	93%	2,764	7,287	93%	111%
ニカド	1,053	361	74%	57%	6,646	2,446	89%	83%
ニッケル鉄	8	10	>>	>>	8	20	743%	356%
ニッケル水素	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウムイオン	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の二次	1,068	773	20%	68%	16,437	5,681	70%	89%